論　説

廃校再生プロジェクト　大人の社会塾「熱中小学校」

NPO 法人はじまりの学校
理事長　佐藤　廣志

1．はじめに

我が国における人口の動向は，2008 年に 1 億 2808 万人に達して以降，減少傾向にある。

2050 年の人口は 1 億人を割り込み，2100 年にはその半分の 5 千万人を割り込むまで減少すると推計されている。これには当然，出生率の低下が関係してくる。人口動態統計によると，2016 年に生まれた子供の数は 1899 年に統計を取り始めてから初めて 100 万人を割り込んだ。今回のテーマである廃校も出生率の減少による少子化，人口減少が大きく関わってきている。廃校とは，学校の統廃合や閉校などの理由で学習活動をやめること廃止することである。このように少子化が急速に進み，当然の結果，生徒数が減少を続けており，また市町村合併が進み，各地に多くの廃校が増え続けている。年間 500 校もの新たな廃校が出るということである。そして，廃校となった校舎を様々な形で再利用する試みが各地でなされている。公共の宿泊研修施設，コミュニティセンター，工場，ミュージアム，介護施設，日帰り温泉，アトリエ，ユースホステル，民宿，病院等々，その施設の有効活用が求められている。しかしながら，廃校となってから活用できず，遊休施設となっているものの方が多いのが現状である。

今回の「論説」は大人向けの学校「熱中小学校」という大人の社会塾についてである。読者にとって一服の清涼剤になればと思っている。

2．熱中小学校とは

「もういちど 7 歳の目で世界を…」

熱中小学校とは，大人向けに仕事観や生き方，起業家精神や技術，農業など様々な分野の授業が行われる学校のことである。廃校だった学校を復活させ，高畠町の NPO 法人が現在のプロジェクトを運営している。教諭として参加するのは，一流の経営者や大学教授や音楽家。様々な分野で活躍する方が小学校の科目に沿い，60 分から 90 分の授業を行う。開催は月 2 回，第 2 第 4 土曜日。

高畠町は東京から山形新幹線で 2 時間 20 分のところにある人口 24,000 人弱の町である。日本一の生産量を誇るぶどう「デラウェア」,「つや姫」に代表される稲作, 洋梨「ラフランス」，さくらんぼ，リンゴなどの果樹栽培が盛んである。山々には古墳や洞窟が多く，それらを称して「まほろばの里」と呼んでいる。「まほろば」とは素晴らしい場所を意味する。そんな，「まほろばの里」であるが，高齢化と人口減少は大きな問題となっている。町内の中学生の数は 1963 年度の 2,664 人をピークに減少に転じて，2010 年度には 721 人，ピーク時の 3 割にまで減少した。高畠町は 4 つあった中学校を再編統合する計画を策定した。町内の中学校が統廃合により，4 校が同時に閉校となってしまう。そ

のような状況に危機感を感じた町役場職員の想いから熱中小学校は始まった。

開校にあたり，様々な議論が交わされるも，アイデアは出ないまま時は流れた。そのような時，地元に恩返しをしたい，「起業家を育成したい」と活動している筆者と町役場職員が協力して，廃校を利活用するプロジェクトが開始されたのであった。そして，筆者がキーマンとして選んだのがプライベートで関わりのあった元日本IBM常務取締役で，地方活性を目指して様々な活動をしていた堀田一芙氏である。そこに「地方で学ぶ社会塾（熱中小学校）」がスタートした。この熱中小学校の運営母体として「NPO法人はじまりの学校」を起ち上げ，2015年10月に大人の社会塾「熱中小学校」がスタートした。NPO法人とは，「社会的な使命の達成を目的に公益的活動を自発的かつ非営利で行う法人」と定義づけられる。国や地方公共団体のように,公営性や公平性に縛られることなく，また，民間企業のように利益追求に追われることなく，社会的課題に対して，迅速かつ柔軟な取組ができるというメリットがある。この法人は，地方創生の基本課題である経済の衰退と人口減少の悪循環からの脱却を目指し，企業ではなく人を地域に呼び戻すべく，経済改革や事業創造を先導する高度人材，将来を担う人材が活動する環境の実現に寄与することを目的としている。法人申請が承認されたのが8月24日で，団体成立は9月7日である。

⑴　特定非営利活動に係る事業
- ①　行政・企業・NPOなどの共同企画支援事業
- ②　起業支援，企業の新産業創出支援事業
- ③　人材育成・組織運営能力の支援事業
- ④　都市と農村の交流，環境と地域づくり事業
- ⑤　ITを活用した新しい社会システム構築事業
- ⑥　講師及び人材派遣事業
- ⑦　ECサイトを活用した商品の販売・雇用の創出
- ⑧　その他，目的を達成するために必要な事業

⑵　その他の事業
- ①　森林環境整備事業
- ②　その他，目的を達成するために必要な事業

※NPO法人定款抜粋

2015年10月3日，高畠町熱中小学校開校式・入学式が行われた。来賓から「休校，廃校となった小学校をもう一度学校として再興した例は全国でも数例しかない。小学校を核にもう一度ムーブメントを起こしたいという気持ちを込めて，私は期待しています」と挨拶を頂いた。別の方からは「地域住民の皆様と一緒に人口減少に歯止めをかけ，地方創生のモデルになり，二度と廃校にしないようにがんばりましょう」とお言葉を頂いた。又，ある生徒さんは「入学しようか迷っていたのですが，主人が後押ししてくれて入学することにしました。授業中に居眠りすることのないように頑張ります。おばさんですが，新しい風に吹かれたいと思います」と語ってくれた。最後に登壇した玉川憲教頭が「丁度7歳から8歳になったところで，そのくらいの子供はなんにでも興味をもって，何も恐れずに何でもやりたがる。ところが人間は学習すればするほど好奇心が薄れていく傾向があって，ワクワク感を勝手に抑制してしまい，好奇心を抑えてしまうところがある。何にでもワクワクしていきたいと思っています。皆さん仲間ですので一緒にワクワクしていきましょう。ご入学おめでとうございます」と締めくくった。社会（国際情勢）の授業を行った日本コンピュータシステム株式会社の犬飼善博社長は熱中小学校での授業を次のように語った。「大勢の人の前で話をするので，間違ったことを話してはいけ

ないので，事前に本を読んだりして，結構真面目に勉強して授業に臨みました。ここで笑ってもらえなかったりして反省点もありますが，生徒の皆さんがとても真剣に受け止めてくれている感じがして，うれしかったですね。活発に質問もしてくれましたし，授業が終わった後の懇親会で名刺交換をすると結構の数の生徒さんからお礼状が届いたり，年賀状を頂いたり，先生と生徒ではなくて人と人との絆ができたように感じました」。

高畠町の廃校になった小学校を大人の学びの場として活用し，同時に町づくりをすることは，ここからスタートする訳である。なお，「熱中小学校」は廃校になった時沢小学校が1979年3月末日まで，日本テレビ系列で放送されたドラマ「熱中時代」のロケ地だったことに由来する。「熱中時代」は若葉台小学校に赴任した，水谷豊さん演じる新任教師，北野広大の指導力が話題になったドラマである。水谷豊さんは「熱中時代」のロケ地であった山形県高畠町立時沢小学校が2010年3月限りで廃校になることを知り，時沢小学校の卒業式の際にビデオレターを寄せてロケ当時の思い出を語った。その模様は2010年3月26日放送の「ズームイン SUPER」（日本テレビ）で紹介された。

さらに廃校を利用した大人の学校という企画だけでなく，そもそものきっかけである「起業家を育成したい」という筆者の意思を実現するため，小学校の2階をベンチャー企業向けの有料サテライトオフィスとして使用することを企画書に盛り込んだ。ここに産（産業）・学（大学）・官（行政）・金（銀行）支援の新しい試みがスタートした。2016年にはここに農業，加工業が加わる。

実証実験の委託金でセキュリティシステムや会議室予約システム，テレビ会議システムなどのインフラを整備することができた。これらの会社とは別に1階のシェアオフィススペースには，アイフォーカスネットワーク株式会社，エヌ・デーソフトウェア，株式会社山形銀行，株式会社トビムシ，株式会社山のむこう等が入居した。

3. 第1期入学生

熱中小学校第1期入学生のプロファイル

応募総数84名（男性53名，女性31名）地

域別(山形県内50名　県外34名　東京16名，宮城6名，北海道3名，神奈川，埼玉各2名，その他福島，石川，静岡，愛知，千葉各1名）応募生徒の年齢構成（20歳未満1名，21歳～30歳13名，31歳 ～40歳21名，41歳 ～50歳28名，51歳～60歳10名，61歳～70歳8名，70歳以上3名（最年長者77歳）

2015年熱中小学校の訪問者数　5月オープンスクール250人，取材5社。8月サマースクール200人，取材5社。10月入学式250人，取材6社。10月授業2回，取材2社。11月授業2回，100人。12月授業2回，120人。その他のイベント11月～12月に3Dプリンター講習会（山形大学工学部支援)。12月4日山形銀行様とNPOとの提携調印式が行われた。

4. 熱中小学校の流儀『学び直して新しい挑戦』ベテランこそ起業しよう

「他力創発」を合言葉に，人が集まり多様な授業を通じて創業精神を育む場を提供し，挑戦する人を創り日本を考えるのが熱中流儀である。(流儀とは，あるものをどう行うか，どう取り組むかということについて，個人の技能ではなく集団的伝統的に共有されている技能共同体を指す)。

熱中小学校の流儀とは，1番目に大事なことは楽しいこと，2番目に大事なことは多様性のある人がいること，3番目に大事なことは刺激と感動があること，4番目に大事なことは輪の広がりがあること，5番目に大事なことはそこに貴方がいること。

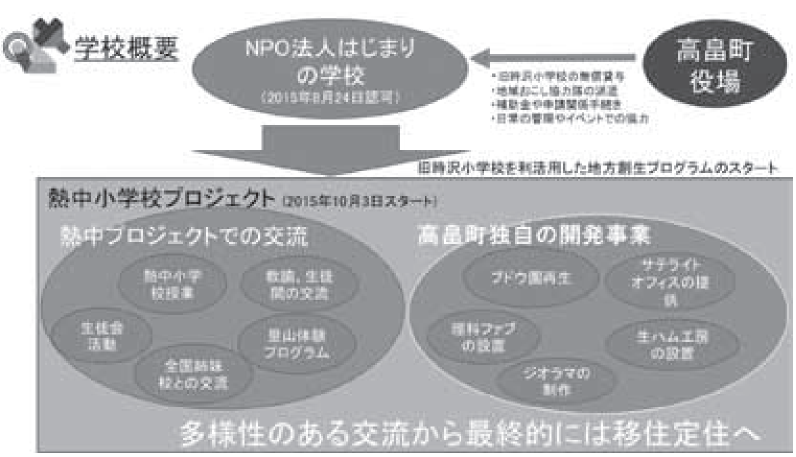
人が全てであり，人が居なければ人材も企業も育たない。熱中小学校では多様で且つ，個性的なマネジメントと素晴らしい教師陣が多様性と刺激的で感動のある対話型講義を行っている。対話を通じて，より多くの素晴らしい可能性を秘めた人材を発掘して育てることは，新しい分野へ挑戦する人を育てるエンジンである。熱中小学校第1期コアプログラム（熱中小学校共通）に充実の教師陣による新しい授業，人材育成，人の繋がりの創出，新しい学びをもう一度，サブプログラム（高畠モデル）にサテライトオフィスを構えての企業誘致,最新技術の学びの場,里山体験の提供，農業IOT技術開発，6次産業化の推進，地域へ働く場の創出を掲げている。

熱中小学校授業の概要は半年1クールとして3年間（6クールで卒業)。第2，第4土曜日13時30分開始。60～90分2時限の授業。ネット授業により遠隔地でも受講可能，授業料は1万円（60歳未満)，2万円（60歳以上)。放課後は生徒主体の部活動による交流もスタートした。

5. 第2期以降

第2期生徒97名(山形県内65名　県外32名)，第3期生徒113名(山形県内80名　県外33名)，第4期生徒132名(山形県内100名　県外32名）が入学。平均年齢は47歳。男女比は男性6割，女性4割である（特に女性の方の活動は活発である)。

ここで第2期の活動のまとめとして，授業の



内容を紹介したい。4月9日第1回授業（北海道の酪農と市場のリアル）有限会社十勝しんむら牧場代表取締役社長，2時限目　社会 × 体育（IT と運動会の融合）運動会屋 NPO 法人ジャパンスポーツコミュニケーションズ。7月23日第8回授業（ものづくりと生産性）山形大学産学連携教授，2時限目　体育（ノータイムポチリ革命　日本代表への挑戦）インフィニティ・ベンチャーズLLP創業者，3時限目　教頭（ソラコム起業物語）株式会社ソラコム代表取締役社長など。

そして第4期になり，生徒の平均年齢は37歳程度と急に若くなる。なぜか。それは私が推奨する働き方改革であり，副業のすすめである。ソーシャルビジネスの起業を目指したり，副業を考える方が多くなった。今の生活を変えたい方，会社に縛られない生き方を模索したい方が増えてきたように思う。スタートアップの入居企業とシェアオフィスは，ほぼ満室，満床である。時代の流れを象徴しているのだろうか。

今後の目標としては，2021年4月を目途に熱中小学校の自立を目指す。現在の経営は地方創生の支援金に依存しているが数年以内にビジネスの力をつけて自立をしていく。

6. 高畠熱中小学校の取組例

東北有数規模の鉄道ジオラマ構想がある。熱中小学校担当教師の古川享氏は，元日本マイクロソフト株式会社社長，会長である。大の鉄道模型好きである古川氏が長年かけて作り上げた巨大なジオラマを高畠熱中小学校に移設することとなり，コンテナに入れられたジオラマが届けられた。そのジオラマ作りを行っているのは，定期的に熱中小学校に通われている，アーム株式会社社長の内海弦氏である。イギリスに本社を置く，半導体会社の日本法人代表である。2016年にソフトバンクが買収した会社だ。その内海氏も大の鉄道ファンである。以前は自宅のマンションで楽しんでいたが，マンションでは手狭なので，小学校の広々とした廊下で鉄道ジオラマを作ることは大変魅力的であった。以後，月1回のペースで高畠に通い，鉄道模型作りにいそしむこととなり，やがて理科の客員教諭に着任する。責任者である内海氏と熱中小学校の鉄道研究会の人たち，そして，山形大学の学生の支援のもとジオラマ作りは進められている。総延長600 m という巨大なジオラマは高畠鉄道山形交通高畠線の景色の再現を目指している。その中を N ゲージ（軌間9ミリ縮尺150分の1）HO ゲージ（軌間16.5ミリ縮尺約80分の1）O ゲージ（軌間32ミリ縮尺45分の1）の3種類の模型を走らせる。総延長600 m にもなるジオラマは日本屈指のスケールであり，N ゲージ，HO ゲージ，O ゲージ3種類の鉄道模型を見ることができるのは東北では唯一で極めて珍しく，日本全国の鉄道ファンを高畠に引き寄せることができる価値を持つ。

その他の特筆すべきプロジェクトは熱中ワイン造りと生ハム，サラミの工場である。高畠町は「デラウェア」の生産量日本一である。その高畠町の中でも熱中小学校のある時沢地区は良質なぶどうが採れることで有名である。高畠熱中小学校では2016年4月から，株式会社高畠ワイナリーの支援のもと熱中小学校のそばの耕作放棄地をぶどう畑に再生する「ぶどう畑再生プロジェクト」に取り組んでいる。5年後に赤ワイン「カベルネ・ソーヴィニョン」が400本できる。楽しみにしている。

又，熱中小学校の1階の給食室が生ハムとサラミ工場に生まれ変わった。株式会社ファインの生ハム，サラミ製造工場である。名付けて「スモークハウス・ファイン・プレミアム高畠熱中ラボ」である。株式会社ファインは「スモークハウス・ファイン」の名で，地元高畠においてハム，ソーセージを製造販売している会社で，本場ドイツで開かれたコンテストで何回も金賞

を受賞している。熱中小学校は裏手が山で前に葡萄畑が広がって霧が深く，イタリアやスペインの生ハム工場と雰囲気がよく似ている。廃校だったところで生ハムやサラミを作るのもいいと，従来よりワンランク上の製品を開発し「プレミアムファイン」のブランドで売り出すことを考えている。

熱中小学校は生徒の授業料，企業の入居費，高畠町からの公的助成を主な財源として出発した。高畠町からの予算に頼らない自立的な運営を目指している。いわゆる交付金が打ち切りになる2021年3月以降の自立が熱中小学校に課せられた課題である。地域連携という強さを生かし，全校を網羅した自立のためのプラットホーム作りとして「熱中通販」を進めている。熱中小学校を母体にしたアマゾンでもない，楽天でもない，独自の通販サイトである。熱中通販事業として，新サイトを開設し，「熱中ブランド」「熱中チョイス」の2種類の商品，サービスを提供する。目的は1つ目に，熱中小学校の通販事業を展開し，授業料，入居家賃以外の収益源を獲得して自立化を目指すものである。2つ目に，コミュニティメディアとして授業＋ α の情報を発信していく。3つ目に，地元の産業，商品を販売することで，より一層，地方創生を深めていく。単にモノを売ったり，買ったりするだけのECサイトではなく，熱中小学校というコミュニティと結びついたユニークなECサイトが出現すると思う。

7. 終わりに

現在，各自治体の最大の悩みは，少子化，高齢化，人口減である。私たちNPO法人はじまりの学校　熱中小学校はここにコミットし，CCRC（コンティニューイング　ケア　リタイアメント　コミュニティ）のモデルとして，若者だけでなく，仕事をリタイアした人が第2の人生を健康的に楽しむ町，元気なうちに地方に移住し，必要な時に医療，介護のケアを受けて元気に住み続けられる町づくりに取り組んでいきたい。